

令和5年度



幼稚園だより 11月号

文京区立小日向台町幼稚園

イメージ豊かに遊ぶ幼児を目指して

副園長 山下 美 幸

さわやかな秋晴れと共に、ドングリやオレンジ色のカキの実を見付けるなど実りの秋を感じる時期となりました。

年少組の廊下には、ビニール袋に紫色や黄緑色の京花紙を入れて作ったブドウ棚ができています。作っている時に様子を見に行くと、マスカットや紫色のブドウをイメージして作る子、隣で作る友達に刺激を受け、紫、黄緑のミックスブドウを作る子がいました。中には、京花紙を丁寧に団子状に丸めてビニール袋に入れている姿も見られ、ブドウの粒をイメージしながら作っているようです。各々にイメージをもったり、友達のイメージに刺激を受けて自分のイメージを膨らませたりしながら遊んでいることを改めて感じています。

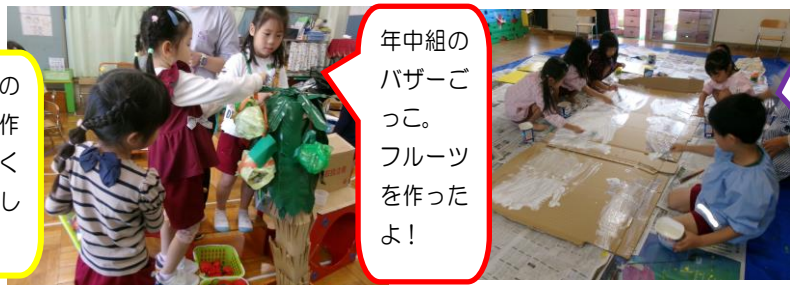
年中組では、こひなた会のバザーで体験した買い物ごっこの後に、バザーごっこが始まりました。自分たちが楽しんだ「ガチャガチャ」を箱で作ったり、新聞紙を丸めて大きなパイナップルやメロンなどのフルーツを作ってぶら下げ「もぎたてフルーツボール」を再現したりする姿が見られました。各々でイメージしながら材料を組み合わせで作ったり、友達とバザーを思い出しながら会話を楽しんだりするなど、共通に体験したからこそ、遊びの中でも「あの時のあれ！」とイメージしたものが分かり、伝わり合えるのだと感じます。

年長組は、現在、遊園地ごっこに取り組んでいます。先日の東京ドームシティアトラクションズの遠足がもとになっていますが、それぞれイメージしていることや作りたいものは異なります。グループの友達に言葉で伝える、絵で描いたものを通して伝える、身振り手振りで伝えるなど様々な表現をしながらイメージを共通にしたり、友達と互いに意見を交わしながら、イメージを膨らませたりしながら取り組んでいるところです。

今年度の本園の園内研究のテーマは「イメージ豊かに遊ぶ幼児を目指して」です。イメージ豊かに遊ぶ中で幼児の中に、創造力や想像力、社会性、共同性などのたくさんの力が育っていきます。これらは、幼稚園教育要領の中にある『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の中の「協同性」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」に明記され、小学校以降の学習や生活にもつながる重要なものです。今後も、幼児たち一人一人がイメージ豊かに遊ぶように、興味・関心を捉え、発達に応じ、魅力ある環境を通した指導を行っています。



年少組の
ブドウ作り。
甘くておいしいよ！



年中組の
バザーごっこ。
フルーツを作ったよ！

年長組の
遊園地ごっこの
取り組み。
みんなで色を塗ろう！